

会 議 録

会議の名称	第 4 回那珂川市総合計画審議会		
開催日時	令和 7 年 5 月 20 日（火） 13：00 ～ 14：00	開催場所	勤労青少年ホーム第 1・2 会議室
出席者	1. 委員 包清委員（九州大学名誉教授）、河野委員（社会福祉協議会）、長田委員（民生委員児童委員協議会）、飛永委員（筑紫農業協同組合）、添田委員（区長会）、山崎委員（区公民館連絡協議会）、熊谷委員（公募）、柴山委員（公募）、末吉委員（公募）、吉永委員（公募） 2. 執行機関（事務局） 石内行政経営課長、末金企画担当係長、長野主任主事		
配布資料	・ 資料 施策大綱 2 前期計画の成果と課題、後期基本計画の目標値について ・ 資料 第 3 回総合計画審議会 積み残し回答 ・ 資料 施策大綱 3 前期計画の成果と課題、後期基本計画の目標値について		
公開区分	開示 ・ 一部開示 ・ 非開示 (理由：情報公開条例第 9 条第 1 項第 号に該当)		
議題及び審議の内容			
1. 会長あいさつ			
事務局 それでは、定刻となったので、ただいまより「第 4 回那珂川市総合計画審議会」を開始する。1. 会長あいさつ。包清会長より一言挨拶をお願いします。 会長 事務局 それでは、ここからの進行は会長にお願いしたいと思う。			
2. 議事			
事務局 それでは最初に、前回会議の中で質問や意見があった内容の説明からする。事前に配布していた「第 3 回総合計画審議会積み残し回答」と書かれた一枚紙の資料をもとに説明する。 表の左に質問・意見の内容、右に解答を記載している。まず、一番上、認知症サポーター養成講座を受けた方の活躍場所について。主に地域のサロンや協議体への協力、認知症に関する啓発事業への協力、市役所で「介護サポーター」として登録をし、介護サポーター活動をするなどがあるとのことだった。			

続いて 2 段目、高齢者の就業率については、令和 2 年度の国勢調査での状況ではあるが、64～69 歳が最も多く 56.17%、全体の数値だと 31.04%となっている。最新の状況については、本年度行われる国勢調査の結果ででてくるかと思う。

続いて、後期高齢者特定健診の個別健診の結果が市役所に共有されるタイミングだが、3 ヶ月ごとに受診記録が共有されるため、タイミングによっては、個別健診を受けたにもかかわらず、健康課からの受診確認の電話がかかってくることもあるとのことだった。

最後に市内の障がい者の割合についてだが、身体障害者手帳の所持者数が R6 年度末時点で 1,735 人、療育手帳所持者数が R6 年度末時点で 430 人、精神障害者保健手帳所持者数が R5 年度末時点で 508 人となっている。なお、精神障害者保健福祉手帳については、県が取りまとめて通知がくるため、現時点では R5 年度時点の数字となっている。

また、積み残しではないが、参考資料として前回ご説明した女性人材リスト前回の積み残しへの回答は以上となる。

それでは、前回の会議の続きから説明をさせていただく。前回会議で配布しておりました濃いオレンジ色の表紙の「施策大綱 2」の資料をもとに説明する。残りの会議回数も限られてきましたので、説明は大綱 2 をまとめて要点の説明させていただく。

7 ページ。子育て支援の分野、基本施策 2「安心して出産、子育てできるまちをつくる」についてまとめて説明する。

続いて、次のページ。施策の 1 つ目「子ども・子育て世帯への支援」では、① 母子保健事業の充実、② 地域子育て支援拠点の充実、③ 子育て世帯に届く情報発信、④ 子育て世帯への支援の充実を主な取組としてあげている。

前期計画の目標は 3 つあげている。1 つ目「子育てしやすい市だと思いう小学生以下の保護者の割合」は達成率 80%、評価 3、2 つ目「母子手帳アプリ、子育て情報サイト登録者数」は達成率 99%、評価 3、3 つ目「ふれあいこども館利用者数」は達成率 50%、評価 1 となっている。

成果と課題については記載の通り。続いて、後期基本計画における取組は、前期計画から引き続きの項目となる。目標は新たな指標「子育てしやすい市だと思いう市民の割合」を掲げ、最終年度に 90%達成することを目指す。下の目標設定の理由のところには、目標値を 80%から 90%へ見直しと記載しているが、他の計画との整合性をそろえるため今回は 90%としている。

続いて、9 ページ。施策の 2 つ目「保育サービスの充実」では、①保育施設の機能充実、②多様なサービスの実施、③就学前の子育て支援のあり方の検討を主な取組としてあげている。前期計画の目標は「保育待機児童数」で達成率 100%、評価 4 となっている。成果と課題については記載の通り。続いて、後期基本計画における取組及び目標値は、前期計画から引き続きの項目とし、保育待機児童数を各年度 0 人とすることを目指す。

続いて、10 ページ。施策の 3 つ目「児童虐待の防止」では、①相談体制の充実、②関係機関との連携強化、③子どもの権利の啓発を主な取組としてあげている。前期計画の目標指標は定めていない。成果と課題は記載の通り。続いて、後期基本計画における取組は、前期計画から引き続きの項目となる。目標指標は、後期計画から新たに「行政区別説明会などの実施回数」を掲げ、最終年度の R12 年度に全行政区説明をすることを目指している。なおこちらは、「子どもの権利条例」に関する説明会を指す。

続いて次のページ。学校教育の分野、基本施策 3「健やかで「生きる力」を持った子どもが育つまちをつくる」について。

施策の 1 つ目「学校教育の充実」では、① 確かな学力の育成、② 豊かな心の育成、③ 健やかな体の育成、④ 特別支援教育の充実を主な取組としてあげている。前期計画の目標指標は 6 つ。

「全国学力・学習状況調査結果」の小学生国語、算数、中学生国語、数学、及び「全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙結果（小学生・中学生）・ICT を活用した授業への意欲」については、達成率 100%以上 130%未満のため評価 4、「全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙結果（小

学生・中学生）・ICT を活用した授業づくりの頻度」は達成度 66%で評価 2 となっている。この

「ICT を活用した授業づくりの頻度」とは、児童・生徒が授業の中でタブレットなどの ICT 機器を「ほ

ぼ毎日」使用すると回答した割合を指す。全国の結果（R6）では、小学校：25.5%、中学校：31.7%となっている。成果と課題は記載の通り。

続いて 13 ページ。後期基本計画における取組は、前期計画から引き続きの項目となる。

目標指標は、前期基本計画に引き続きが 6 つ、新しい指標を 1 つあげている。「全国学力・学習状況調査結果」の「小学生・国語」の目標値は各年度全国平均 5 ポイント以上、「小学生・算数」は各年度全国平均 2 ポイント以上、「中学生・国語」は各年度全国平均 4 ポイント以上、「中学生・数学」は各年度全国平均 6 ポイント以上、「ICT を活用した授業づくりの頻度」及び「ICT を活用した授業への意欲」は各年度 100%以上。最後に新たな指標として、「学校栄養職員の配置数」を設定し、各年度 100%配置を目標としている。

次のページ。施策の 2 つ目「地域とともにある学校づくりの推進」では、①学校、家庭、地域、施設などとの連携・協働を主な取組としてあげている。前期計画の目標指標は「拡大コミュニティ・スクール実施件数」で達成率 89%、評価 3 となっている。成果と課題については、記載の通り。続いて、後期基本計画における取組及び目標は、前期計画から引き続きの項目となり、拡大コミュニティ・スクールを各年度 9 件実施することを目指す。

次のページ。施策の 3 つ目「教育環境の充実」では、① 学校施設の整備・充実、② 専門性の高い教職員の育成、③ 就学の支援を主な取組としてあげている。前期計画の目標指標は「バリアフリー化改修率（多目的トイレ整備率）」で達成率 113%、評価 4 となっている。成果と課題は記載の通り。続いて、後期基本計画における取組は、前期計画から引き続きの項目となる。目標指標は、前期基本計画から引き続きの項目と新たな項目を 1 つあげている。引き続きの取組は「バリアフリー化改修率（多目的トイレ整備率）」で、目標値は最終年度に 100%となることを目指す。新たな項目として、「教職員の年間休日取得数」で、目標値は各年度で 20 日を目指す。

次のページ。社会教育の分野、基本施策 4「市民一人ひとりが生涯学習やスポーツに参加しやすい環境をつくる」について説明する。

施策の 1 つ目「社会教育の推進」では、① 学校を核とした地域づくりの推進、② 子どもの居

場所の確保、③ 家庭の教育力の向上、④ 青少年の健全育成、⑤ 社会教育関係団体の連携強化、⑥ 国際交流の推進を主な取組としてあげている。

前期計画の目標指標は「地域学校協働活動推進員の配置数」で達成率 100%、評価 4 となっている。成果と課題については記載の通り。続いて、後期基本計画における取組は、前期計画から引き続きの項目となる。目標指標は、新たに 2 つあげており、1 つ目は「地域学校協働本部の設置数」で、目標値は 10 校配置を目指す。2 つ目は「家庭教育学級生数」で、目標値は最終年度に 140 人を目指す。

次のページ。施策の 2 つ目「生涯学習の推進」では、① 多様な学習機会の提供、② ミリカローデン那珂川、市立公民館などの施設の整備・充実、③ 読書活動の推進を主な取組としてあげている。前期計画では、「高砂大学受講者数」及び「図書館の貸出冊数」を掲げており、どちらも達成率 59% 以下で評価 1 となりました。なお、図書館の貸出冊数については R5 年度に改修工事が行われたため実績値が少なくなっている。成果と課題については記載の通り。続いて、後期基本計画における取組は、前期計画から引き続きの項目となる。目標指標の 1 つ目は、前期計画から引き続き「高砂大学受講者数」で、各年度において 210 名を目指す。2 つ目は指標を「図書館の利用者数」に変更し、最終年度に 110,000 人達成することを目指す。

次のページ。施策の 3 つ目「スポーツの推進」では、① 総合運動公園の整備、② スポーツ施設の整備、③ 市民のスポーツ活動を支える団体の育成を主な取組としてあげている。前期計画の目標指標は「市内学校・社会体育施設利用者数」で達成率 91%、評価 3 となっている。成果と課題は記載の通り。続いて、後期基本計画における取組及び目標指標は前期計画から引き続きの項目となり、各年度において 260,000 人の達成を目指すこととしている。以上で大綱 2 の説明を終わる。

会長

それでは、大綱 2 に関する取組について説明があったが、質問や意見ある方はいるか。

委員

認知症サポーター養成講座について、市内在住 65 歳以上の方が対象となっているが、これはサポーター側が 65 歳以上という意味である。なぜ 65 歳以上に設定したのかが疑問である。自分は 55 歳で、民生委員のボランティアスタッフとして、レクリエーションなどをずっとサポートしている。65 歳以上の民生委員の方は、講座を受けて登録するとポイントを還元してもらって循環が生まれて、ラッキーだという話があった。また、上限が 5,000 ポイントと記載があるが、昨日は 10,000 ポイントとなっていた。そこは確認をお願いしたい。

事務局

1 つ目の市内 65 歳以上の方が対象というところについては、介護サポーターとして活動することが介護予防に繋がるため、65 歳以上を対象としている。ポイントの上限については確認後、次回会議で回答したいと思う。

委員

年齢の設定についてはわかったが、若くて民生員をやっている人が実際に活動しているし、若い人が入れば入るほど良いと思うので、年齢で足切りする意味がよくわからないと思った。ぜひ検討をお願いしたい。

委員

これからのまちづくりは厳しい状況。市民が自治体を選ぶ時代になってきている。那珂川市がどうしたら選んでもらえるかを考えた場合に、やはり子育て支援は大きなポイントだろうと思う。これをみると、一斉入所時の待機児童はゼロとなっているが、年度途中からは待機児童が生じている。この、一斉入所時の待機児童ゼロは、全員希望した保育所に入れたという数字か。

事務局

全員が100%の希望通りとはなっていないが、定数には収まっているという数字である。

委員

希望者が希望する保育所に入れるように準備をしておくことが理想だが、人件費や設備の問題等があるため、その辺りのバランスを考えていかなければならないということになるのだろう。宗像市や福津市は人口が増えている。あれは、子育て支援が大きい。

特に家をどこに建てようか考えた場合に、子育て支援で個の自治体は何をやってくれるかというところを比較する。宗像地区は福岡に通っている人も多いが、時間がかかる。それでも子育て支援が充実しているから、若い人達がたくさん入ってきて人口が増えている。

那珂川市も予想では、なだらかな右肩下がりとなっているし、現実そのとおりである。

あれもこれもではなくていいから、一つアピールポイントが必要である。一つ目はやはり子育て支援、二つ目は博多駅への交通アクセスだと思う。交通アクセスは博多南線があるため良いと思うが、問題はやはり子育て支援である。一気に難しいかもしれないが、福岡市もかなり苦労しているので、その人達を那珂川に惹きつけるのは一つの戦略ではないだろうか。

会長

人口区分構造と、待機児童の発生しやすい所、発生しにくいところを考えながら、受け入れ態勢を整えていく。そして、アピールポイントをどこに置くのかという戦略。

その辺りを少し検討してもらえたらと思う。他にあるか。

委員

自分もいつも子育てのアピールポイントを気にしている。

何をもって子育てしやすい市だと思うかは、人それぞれだと思うが、自分が個人的に感じているのは、那珂川市は公園の遊具が少ない。

子育てしている立場でいると、毎週どこに子どもを連れて遊ばせようか、なるべくなら外で遊ばせたいという思いがある中で、大きい公園はたくさんあるが子ども達が楽しめるような遊具があるかといったらあまりない。それで結局、春日公園や白水大池公園、大野城のいこいの森などに流れていってしまう。それがすごくもったいないと感じる。

例えば、那珂川市に何か無料で遊べる公園があれば、そこに子育て世帯の人達が集まってきて、何か食べたりとか飲んだりとかでお金も落としてくれると思う。何か用事がないと那珂川には来ないので、それをきっかけに那珂川を知ってもらえる機会にもなる。

先日、田川の大任町に新しくできた公園にいった。道の駅にはフードコートがあり、その周りに公園があって、児童館みたいに屋内で遊べる施設もあった。

町内の方は1時間無料で遊べるが、町外の方は、子ども100円、大人500円とられるが、暑かったなのでそこで遊ばせた。そこには、高齢の職員の方もいて、雇用にもつながっているし、町外から来た人はお金を払わないといけないので、確実にお金も入ってくる。

道の駅で働いている人、販売している人、お掃除する人などたくさんの雇用が生まれていて、いい循環になっているなど感じた。やはり、先ほども話に合ったように、これから那珂川市が存続していくためには、若い子育て世帯の人に住んでもらって、さらにまたそこで子ども達が育って、よそに出て行っても那珂川に戻って子育てしたいと思ってもらうことが必要。

何か新しい公園を作ってくださいとかではないが、国がやっている子ども真ん中公園づくり支援事業をやっている、春日市がそれを利用しているというのもきいたので、もし予算が取れるのであればそういうのも活用しながら、検討してもらえればと思う。

会長

子どもの地域への愛着を育てることが出来るよう、公共サービスに関しても、子どもの成長段階、それから家庭の状況に応じた優遇なりを含めたサービスの提供の仕方について、機会があれば検討していただければと思う。他にあるか。

委員

先ほどの話に付け加えて。自分は3人の子を育ててきたが、よく中ノ島公園の川あたりで遊ばせていた。自分は、結構冒険心が高いので、こちら辺の川辺に行ってみたらどうだろうと、あまり人が行かないようなところに子どもと一緒にいた。あまり人が多いとリラックスできないから、朝一でいって、誰も居ないところで暑くなる前に川遊びさせて帰るみたいなことをよくやっていた。那珂川の川のそばは魅力的なので、大自然に育てて貰ったという感触は、のちの子どもの完成を豊かにする。

今も、中ノ島公園はすごくよくなっているが、その奥側の森のようなところも、何か TENT を張ったり、お茶できたりできて、なおかつおしゃれな感じにすると、若い方も集まってくるのかなと思う。

付け加えだが、現人神社が、すごく参拝客が増えている。その工夫というのが、インスタのスタンドを設置されていたり、季節ごとのお花を飾ったりしている。手を洗う所のお花は週替わりで変わっている。来た人がまた来たいと思えるような演出をしていて、那珂川のイラストレーターのかたを採用したりして、どんどん人が集まっている良い成功例として参考にしてみてもいいのではと思う。

福岡市に行くと駐車料金もかかってなおかつ使用料もかかる。アンパンマンミュージアムは、ポップコーンが3,000円もする。夏はクーラーも聞いていて親はありがたいが、高いから続かない。やはり、子育て世代を応援するサービスを今ある資源を使って、何かで来たらと思う。

委員

中ノ島公園は、夏休みは福岡市からもたくさんの人が来ている。あまり教えたくないが、五ヶ山ダムの下の方にリバーパークができています。今はまだ人が少ないが、夏休みになったら小さいお子さんが、若い両親と一緒に遊びに来ている。豪華でなくていいので、水とふれあえるスポットがいくつかあるといいと思う。

会長

総合戦略の内容に関わるような具体的な提案を沢山いただきました。総合計画でその辺りまで含めて具体的に表現するというのはなかなか難しいと思うが、実現手段のところにどのように盛り込めるか検討いただければと思う。他にあるか。

委員

10 ページの子どもの権利条例について。3 年前、子どもにやさしいまちづくり行動計画検討委員会が立ち上がってその中でもいろいろ検討してきたが、今回ここで掲げられている目標指標が「行政区説明会の実施回数」となっている。

説明会の回数は、やれば終わってしまうので意味がない。この条例は宗像市の制定が早く、子ども達の条例認知度は 100% である。目標に設定するなら、条例の認知度を設定すべきではないか。

事務局

原課のほうとも協議して、目標指標を検討したい。認知度については、住民意識アンケートなどで取れるのではないかと思う。

委員

宗像市では、中学校のカリキュラムに子どもの権利条例を入れている。せっかく条例が、県内で 6 番目に制定されたのだから、それを目玉として利用していかないとと思う。

会長

認知度を上げていくためにはまず周知ということで、行政区説明会を設定したのだと思う。説明会を実施し、確実に認知を広め、そのうえで、認知度も含めた評価をしていくことを検討いただければ。他にあるか。

委員

学校栄養職員の配置という目標があるが、今は全校に配置されているのか。

事務局

現在は全校に配置されている。学校栄養職員とは、県が予算を付けて配置するが、全校分県が出してくれるわけではない。県が配置できなかった学校に、市の予算で配置をしていく。

今後、県からの配置が減ったとしても市の予算でしっかり全校に配置できるように目標を立てている。

委員

2つだけお願いをした。1つ目は、子どもの無戸籍者問題をときどき聞く。那珂川市の行政として、戸籍の登録がないので把握しづらいとは思いますが、何か市としてやっていることはあるか調べてほしい。

それから、社会教育について、地域の社会教育というのは簡単に言えば地域貢献、人と人とのつながりづくりだと認識しているが、コロナ禍の後、ここの認識が薄れてきている。

さらに、何か新しいものを作り替えようとする温度差が激しくなって、社会教育という認識が無くなってきている。

それは、区民の方はじめ行政側の若手も同じように、知識不足を感じている。行政側としても社会教育というのは基礎基盤であると思うので、行政全体での知識のレベルアップをしていただきたい。

あとは、19 ページのスポーツ活動を支える団体の育成について、体育団体がやる大会等が最近おざなりになってきている。大会自体も少し見直して、次世代の子たちに向けての使い方を見直していく必要があると思っている。

事務局

いただいた意見については原課にも共有する。

会長

それでは続いて大綱 3 について事務局より説明をお願いする。

事務局

それでは続いて、事前に配布していた、黄色い表紙の「施策大綱 3 自然と調和した快適に暮らせるまちづくり」について説明させていただく。

大綱 3 では 4 つの基本施策を掲げている。こちらについてもまとめて説明させていただく。

施策の 1 つ目「賑わいある都市空間の形成」では、① 新市街地の創出、② 秩序ある土地利用の実現、③ 良好な都市景観形成の促進、④ 案内サインなどの整備、⑤ 博多南駅前ビル周辺の活性化を主な取組としてあげている。

前期計画の目標指標「新市街地創出に向けた事業の着手件数」は達成率 100%、評価 4、「景観計画策定件数」は達成率 0%、評価 1 となる。成果と課題については記載の通り。

続いて、後期基本計画における取組は、前期計画から引き続きの項目となる。

目標指標は、新たに「新市街地創出に向けた事業の着手件数／土地利用規制の変更」を掲げ、目標値は最終年度に 3 件を目指す。

続いて、道路交通の分野基本施策 2 について。

施策の 1 つ目「道路などの整備」では、① 幹線道路の整備、② 生活道路の整備、③ 橋梁などの整備、④ 道路などの環境保全を主な取組としてあげている。

前期計画の目標指標「クリーンパートナー活動団体数」は達成率 100%、評価 4 となる。成果と課題については記載の通り。

続いて、後期基本計画における取組は、前期計画から引き続きの項目となる。

目標指標は、後期計画から新たに「健全度Ⅲ(早期措置段階)の件数」を掲げ、目標値は各年度 0

を目指す。なお、この健全度とは、国が定める点検要領に基づき判断するもので、健全度Ⅲでは広範囲の腐食やひび割れなどがあり、橋の利用に支障をきたすようなものを指す。本目標では、健全度Ⅲになるような橋がない状態を維持することを目標としている。

また、前期計画に引き続き「クリーンパートナー活動団体数」も目標として掲げ、最終年度に23団体となることを目指す。

施策の2つ目「公共交通網の整備」では、① 公共交通体系の検討、拠点間の交通ネットワークの強化、② 生活交通の確保、③ JR 博多南線の維持・充実としてあげている。

前期計画の目標指標「かわせみバス年間利用者数」は達成率91%、評価3となる。成果と課題については記載の通り。続いて、後期基本計画における取組は、前期計画から引き続きの項目となる。目標指標は、「市公共交通利用者総数」を掲げ、目標値は毎年252,302人の維持を目指す。

生活環境の分野、基本施策3「安全で快適な生活環境をつくる」について説明する。

施策の1つ目「清潔な生活環境の形成」では、① 公共下水道などの整備、下水道の安定した経営、② 水道水の安定供給を主な取組としてあげている。

前期計画の目標指標「下水道普及率」は達成率100%、評価4、「市が管理する合併処理浄化槽数」は達成率96%、評価3となる。成果と課題については記載の通り。

続いて、後期基本計画における取組は、前期計画から引き続きの項目となる。

目標指標は、新たに下水道管の「管路点検調査済率(1巡目)」を掲げ、目標値は最終年度に100%を目指す。

施策の2つ目「憩いとやすらぎの場の確保」では、① 都市公園などの整備、② 自然とふれあう場の整備を主な取組としてあげている。

前期計画の目標指標「フェンスを高くした公園数」は達成率100%、評価4、「那珂川沿いの散策路の整備延長」は達成率0%、評価1となる。成果と課題については記載の通り。

続いて、後期基本計画における取組は、前期計画から引き続きの項目となる。

目標指標は、新たに「整備した公園数」を掲げ、目標値は最終年度に10公園を目指す。また、前期計画に引き続き「那珂川沿いの散策路の整備延長」も目標に掲げ、最終年度に1,500mを目指す。

施策の3つ目「安全で快適な住環境の創出」では、① 建築物耐震化の促進、② 住宅改修の支援を主な取組としてあげている。前期計画の目標指標「住宅の耐震化率」は達成率97%、評価3となる。成果と課題については記載の通り。

続いて、後期基本計画における取組及び目標値は、前期計画から引き続きの項目となり、さ「住宅の耐震化率」を最終年度に100%を目指す。

行財政の分野、基本施策4「市民目線に立った行政運営を推進する」について説明する。

施策の1つ目「効率的な行政運営の推進」では、① 組織力の向上、② 行政職員の資質向上、③ 業務効率化に向けた改善、④ 広域行政の推進を主な取組としてあげている。

前期計画の目標指標「行政業務におけるAIやRPAなどの活用件数」は達成率67%、評価2とな

る。成果と課題については記載の通り。

続いて、後期基本計画における取組は、前期計画から引き続きの項目となる。

目標指標は、新たに2つ目標を掲げている。「研修受講者数」について、実績値が空白となるが、R5年度は68人となる。また、目標値についてはR7年+人数と記載をしているが、表現の仕方がわかりにくいためR5年度実績に毎年プラス5人ずつの増加を目指し、R8年73人、R9年78人、R10年83人、R11年88人、R12年93人としたいと思う。

続いて、「デジタル技術等を活用し業務を効率化した件数」については、毎年2件実施していくことを目指す。

施策の2つ目「健全な財政基盤の確立」では ① 計画的な財政運営の推進、② 市税の適正な賦課・徴収の推進、③ 保有資産の有効活用と適正管理、④ 自主財源の確保・拡大、⑤ 入札・契約事務の適正化、⑥ 適正な基金残高の確保を主な取組としてあげている。

前期計画の目標指標「経常収支比率」は達成率101%、評価4、「堅実な基金運用」は達成率61%、評価2、「固定資産税の賦課に係る現地調査の実施回数」は、達成率100%、評価4、「市税現年分の収納率」は、達成率97%、評価3となっているが、R5年最新の実績値が99.17となっているため、達成率100%、評価4へ修正をお願いしたい。

成果と課題については記載の通り。続いて、後期基本計画における取組は、前期計画から引き続きの項目となる。

目標指標は、新たに「①ふるさと応援寄附収入額」を掲げ、最終年度に10億円を目指す。残りの目標値については、前期計画から引き続きの項目となり、「堅実な基金運用」では毎年1%を、「固定資産税の賦課に係る現地調査の実施回数」では毎年9回を、「市税現年分の収納率」では、毎年99%をそれぞれ目指す。

また、こちらも1点修正がある。下部に記載の目標設定理由の①について、こちらの説明は原課と協議の上、削除となった指標の目標設定理由になるので、こちらの①の文章も削除となる。

施策の3つ目「情報ネットワークの適正な活用」では ① 情報化社会に対応した行政運営の推進、② デジタル・ガバメントの推進、③ 情報セキュリティの確保を主な取組としてあげている。前期計画の目標指標「マイナポータルからマイナンバーカードを用いてオンライン手続きが行える環境整備」は達成率100%、評価4、となっている。

成果と課題については記載の通り。続いて、後期基本計画における取組は、前期計画から引き続きの項目となる。

目標指標は、新たに2つの目標を掲げ、1つ目は「マイナンバーカードを用いたオンライン手続きサービスの申請件数」で最終年度に800件を目指す。2つ目は「職員研修の実施」で毎年1回の実施を目指す。

施策の4つ目「広報活動の推進と広聴活動の充実」では ① 広報活動の推進、② 広聴活動の充実、③ 議会情報の提供と円滑な議会運営の推進、④ 情報公開制度の適正な運用を主な取組としてあげている。

前期計画の目標指標は4つで、「公式ホームページのアクセス数」が83%、評価3、「市議会だより」閲読（毎回読んでいる）率は60%、評価2、「公文書開示請求の件数」が170%、評価5となる。成果と課題については記載の通り。

続いて、後期基本計画における取組は、前期計画から引き続きの項目となる。

目標指標は、新たなものが2つ、引き続きのものが1つで、まず新たな項目として「「広報活動の推進と広聴活動の充実」に関する住民アンケートの満足度」については、最終年度に3.1点となることを目指す。続いて、「SNS フォロワー数の増加」については、SNS と広く定義するのではなく対象を絞りたいと思うので「SNS」を「Instagram」に修正をお願いする。

また、目標値について、R7 年度+人数という表記になっているかと思いますが、先ほど同様に分かりやすくするため、年500人ずつの増加を目指し、R8 年度2,500人、R9 年度3,000人、R10 年度3,500人、R11 年度4,000人、R12 年度4,500人と思いたいと思う。

続いて、前期に引き続き「「市議会だより」閲読（毎回読んでいる）率」については、最終年度に60%となることを目指す。

施策の5つ目「窓口サービスの充実」では、① コンビニ交付、休日開庁など、市民目線に立った利用しやすい行政サービスの推進、② 総合的な行政窓口の充実を主な取組としてあげている。前期計画の目標指標「コンビニ交付利用率」は達成率123%、評価4、「住民異動に伴う手続きワンストップ化率」は達成率99%、評価3となっている。

成果と課題については記載の通り。続いて、後期基本計画における取組及び目標値は、前期計画から引き続きの項目となり、「コンビニ交付利用率」は、最終年度に37%を目指す。なお、「住民異動に伴う手続きワンストップ化率」については、現状、ワンストップ化できる手続きはほとんど市民課窓口で対応しており、また、他課の窓口でしか対応できない手続きも一定数あるため、ワンストップ化率をこれ以上伸ばすことは難しいため目標からは削除している。

施策の6つ目「実効性の高い行政運営の推進」では、① 組織マネジメントの充実、② 行政評価制度の推進を主な取組としてあげている。前期計画の目標指標「市民満足度の平均値」は達成率96%、評価3となっております。成果と課題については記載の通り。

続いて、後期基本計画における取組及び目標値は、前期計画から引き続きの項目となる。

目標指標は新たに「管理職員の総合評価全体に対する業績評価のウエイト率」を掲げている、表現が分かりづらいため、現在原課の方に目標として掲げるか否かについて再度検討していただいています。次回以降の会議の中で、改めてこの点については報告させていただきたい。

以上で大綱3の説明を終わる。

会長

それでは、基本施策3に関して説明があったが、質問や意見がある方いるか。

委員

6 ページの那珂川沿いの散策路の整備について。大橋の方から老司までは、きれいな散策路が出来ているが、残念ながら那珂川市からは途絶えている。前期基本計画では、目標進捗度0であるがこれは何か障がいがあるのか。

事務局

これは、福岡県的那珂川河川改修事業の進捗に合わせて、協議を重ねて進めていく必要がある

ため、前期基本計画での進捗は0となっている。

委員

つまり、那珂川は2級河川だから、福岡県の方と調整しなければならないが、調整に手間取っている。那珂川市だけでは作れないという認識か。

福岡市がぎりぎりまで散策路を作っているから、是非つないでほしいと思う。

会長

那珂川市の手前でUターンして帰られるのはもったいない。

令和12年度で1,500mの予定が立っているが目途は立っているのか。他にあるか。

事務局

はっきり絶対できるという目途が立っているわけではないが、目標として進めていく。

委員

3ページのクリーンパートナー活動について、自分は個人的に活動をしている。

最初は1人でごみ拾いを毎日する習慣があって、それを見た友達や朝挨拶をする人が素晴らしい活動だから自分も参加したいと声が上がって、日曜だけその仲間が集まって、複数人でクリーンパートナー活動をしている。市役所からゴミ袋をもらって活動しているが、そういう支給があることで思いっきりゴミ拾いを思い切り楽しめるようになって、これが効果の高い活動だと思う。ゴミ拾いをすると声をかけてもらえることも増して、顔見知りになって地域の人とコミュニケーションを取ることができる。

あとは、安德小学校から現人神社のところまで行って帰ってくるので、景色がいい。田んぼなど季節の移り変わりを感じることができるし、そうやって田畑が動いていくという躍動を感じられるのも財産であるし、子どもの教育にもなると思う。

このクリーンパートナーという活動が是非皆さんに浸透してほしいと思って、こうやって発信していつているが、このように今ある制度を使って、住民同士でコミュニケーションをとったり、分かち合ったりできる面白い取組が出来ないかなというのが提案である。

会長

市民の愛着ということも含めて、こういう活動を上手く展開できるよう、先ほどの景観計画とも関係すると思うが、まちの魅力を再発見する機会を作る仕掛けをぜひ検討いただければと思う。他にあるか。

委員

5ページ管路点検調査については、上下水道両方なのか、下水だけなのか。

事務局

ここでは下水道だけが対象となる。上水に関しては、水道企業団の管轄となる。

会長

公共施設の老朽化対策については、近年大きな事故もあったりしているため、どんどんやっていただきたい。他にあるか。

委員

13 ページのマイナンバーカードについて、現在の交付率は。

事務局

82.3%。マイナポイントの配布の際に、交付率が上がった。

会長

今後はマイナンバーカードを使う場面が多くなり、100%に近い数字に持っていく必要があるだろう。他にあるか。

委員

ふるさと納税の寄附収入額の目標値を令和5年度から令和12年度にかけて倍くらいになっていると思う。結構な金額だと思うが、魅力的な返礼品等がないと難しい数字だと思うが、何か根拠があるのか。

事務局

10億の根拠はないが、ここに関しては、市の財源確保を、市としても力を入れていかなければならないという認識があり、今年度から新しく地域振興部をつくっている。

その中に、新しく地域戦略課というふるさと納税と企業誘致だけをする課を立ち上げ、今そこでどういった商品があるかのなどのリサーチを進めているところである。

会長

新たな課の創出について、記載はしなくてもよいのか。

事務局

表現の仕方については、検討したい。

委員

ちなみに那珂川市で人気の返礼品は何か。

事務局

博多和牛のシャトーブリアンや明太子が人気である。博多和牛と明太子については、県産品とあって、福岡県内の自治体で、商品を取り扱う事業者が市内にあればどこでも出せる返礼品である。地元のものでいえば、ベーグルが人気である。

委員

ヤマモモとかは数量がたくさん取れないから難しいのか。

事務局

返礼品としてはあるが、数量の確保が難しい。ランキングにのらないとたくさんでない。

会長

商品のブランド化や確立についてセットで検討いただければと思う。他にないか。

委員

11 ページのマイナンバーカードを用いた住民サービス申請件数について、令和 12 年で 800 件と

あるがこれは人口規模を考えると決して多い数字ではないと思う。

トータルでどのくらいの手続きがあるのか。2 万件あって 800 件と、1000 件あって 800 件ではボリュームが違う。

委員

この数字については地域性が出てくるのではないだろうか。那珂川市は個人事業主も多いため、結構昼間に役所にいける人も多い。件数としても、直接役所に行った方が早いから使っていないといった可能性もあるので、要因は調べてもらった方が良いのではないかと思う。

事務局

全体の件数については、次回会議の中で回答したい。

マイナンバーカードを使用したオンラインサービスの対象は今後増加する可能性もあるため、そこもふまえながら、検討したいと思う。

委員

8 ページについて。那珂川市としては、DX が非常に遅れているように感じる。この目標値もこれでは効果が図れないのではないか。会議をネット配信で行う際も、職員が対応出来ていなかった。市役所の受入が十分できていないのではないかと思う。

事務局

こちらについても、さき程と同じように新しく DX 推進担当ができ、市として力をいれていこうとしている。いま、そこでいろいろな検討をおこなっている。こういったものは、効果がでるまで少し時間がかかるかもしれない。DX 推進担当ともやり取りしているが、何がいいかというのは、導入後のコストも考えて慎重に検討していく。

会長

ありがとうございました。それでは、すべての議事が終わったので進行を事務局へ返したいと思う。

事務局

それでは、その他に移る。本会議はあと残り 3 回を予定している。かなり先の予定になるが、先に残りの会議についても日程調整をしてしまいたい。本日予定がわかる方は提出して帰って

いただきたい。日程が分からない方は、5月30日（金）までに、本様式もしくは、メールにベ
タ打ちで参加可能な提出を記入の上、提出してほしい。

それでは、全体を通して何か質問等あるか。なければ、第4回総合計画審議会を終了する。